

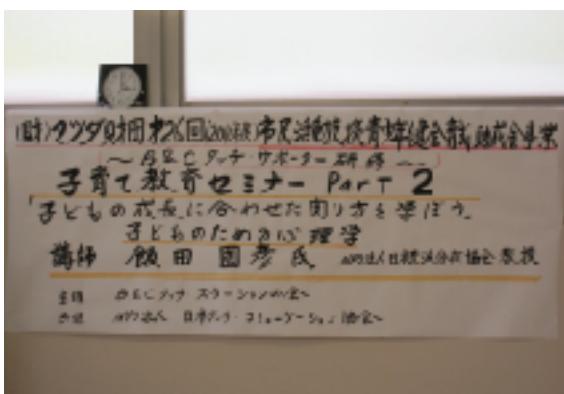
活動名	団体名	B & C タッチ・ステーションの会
B&Cタッチステーションを各地に広げよう B&Cタッチサポーター研修	地 域	広島県呉市
	代 表 者	会長 磯井 裕子
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>1)【子育て教育セミナー】ベビーケアとチャイルドケアに対応できる支援に拡大すべく、教育セミナーを2回に分けて開催し【子どもの成長に合わせた関わり方】を学び、会員の支援レベルをワンランクアップした。</p> <p>2)【テキストの標準化】子どもの成長に合わせた関わり方をテキストに編集し、制作し、各ステーションで活用した。他地域展開は、NPO日本タッチ・コミュニケーション協会と共にセミナー、講演会などを行った。</p> <p>3)【リーダー研修】既存のステーションの支援レベルをチャイルドまでアップするため、また、新規ステーションの増設の為にリーダー研修を開催した。</p> <p>①呉市、廿日市市、広島市安佐北区(亀山)、安佐南区(佐東)、中区の5つのステーションにチャイルドケアができるサポーターが増え、支援レベルがアップできた。</p> <p>②ステーションの開設準備中であった広島市南区、安芸地区(坂、海田、熊野)、福山市(沼隈町、駅家町)、神石郡(神石高原町)で、7つの新規ステーションが設立し、B & C の賑わった活動をしている。</p> <p>③開設の予定ではなかった2地域で新規ステーションが設立。広島市安佐北区真亀は、真亀公民館から要請・安佐南区西風新都は、広島信用金庫西風新都店からの要請で設立し、現在稼働中。</p> <p>④他地域展開として熊本・倉敷・児島で設立準備を始めた。</p> <p>4)【タッチステーションのネットワークの構築】各地域のステーションとの連携を深め、幅広い支援ができるよう、ネットワークを構築した。</p>		
◆実施時期		1)【子育て教育セミナー】
		パート1【日時・場所】2010年4月17日 10:30~16:00 会場:呉ポートピアパーク
		パート2【日時・場所】2010年6月4日 13:30~15:30 会場:呉ポートピアパーク
2)【テキストの標準化】		4/1~5/6・6/3~7/1・9/2~10/7 10:00~13:00二葉公民館・呉ポートピアパークなど 10月~11月データ入力・編集・出版 12月12日・ソロブチミスト児島と倉敷市立短期大学との共催で教育講演会が開催され、本事業のテキスト内容で講義し、ソロブチミスト会員、学生など85人が参加。ソロブチミスト児島クラブプレー賞を受賞した。
3)【リーダー研修】		4/22~5/27・6/24~7/22・9/30~10/28 10:00~13:00二葉公民館など
4)【タッチステーションのネットワーク構築】		2010年11月25日 13:30~15:30 二葉公民館
◆参加人数		1)【子育て教育セミナー】 パート1:2010年4月17日、延べ人数65名、パート2:2010年6月4日、延べ人数24名 2)【テキストの標準化】 全6回、延べ人数57名 3)【リーダー研修】 全6回、延べ人数61名
		参加総人員 207名



会議風景



支援者セミナー風景



支援者セミナー風景



支援者セミナー風景

◆実施に伴う効果

- ・サポーター研修として「子育て教育セミナー」を2回にわたり開催したが、サポーターだけでなく、一般の子育て中の方の参加が多くあった。自分の子育てに生かして実践できるため、次期のサポーター養成にも期待できる。
- ・「子育て教育セミナー」開催後、交流分析や心理学に興味を持つサポーターやお母さん達が多くみられ、各地区の心理学講座を受講希望の人が増えた。また、NPO法人日本交流分析協会の安芸教室が開催する「交流分析士2級」講座を受講し、スキルアップを目指すサポーターが増えた。
- ・保育士や子育て支援センターの職員など、すぐに実践できるサポーターが参加し、リーダー不在だった熊野町でのステーション開設に繋がった。
- ・ひろしん(企業)や真亀公民館(公共)からの講座依頼があり、準備予定ではない地域でも、ステーションを立ち上げる事ができた。毎月1回のペースで地域の親子が集まり、サポーターの実践の場として活動している。

◆新設ステーション

安芸地区・海田東児童館 ・なぎさ若竹なかよしハウス
熊野地区・熊野子育て支援センター 安佐地区・ひろしん西風新都店 セミナールーム ・真亀公民館
福山地区・神石郡神石高原町 小畠保育所 ・沼隈町 常石保育園「すくすくハウス」 ・駅家町 宜山ひかり保育園

◆現在準備中

熊本…来年度にセミナーを実施する予定

倉敷…セミナーを開催後、来年度、ステーション立ち上げ予定

児島…ソロプチミスト児島より要請があり、教育講演会を開催した。来年度、ステーション立ち上げ予定

◆苦労した点

- ・広島県内でステーションを立ち上げるのは、NPO日本タッチ・コミュニケーションのセミナーと連携して展開できるが、他地域の場合は交通費の捻出が難しく、継続的な活動が展開しにくかった。受け入れ先が団体(ソロプチミスト児島、倉敷光クリニック)の場合はそこから保育園などと繋がれる機会があり展開しやすいが、受け入れ先が個人の場合は地域の理解を得るまでに時間を要し、思うように捲らない。
- ・当初は、チャイルドケアの部分だけのテキストを作成する予定だったが、原点のベビーケアがなくては、チャイルドケアだけでは理解が難しいということが分かり、テキスト編集が予想以上に時間がかかった。(ベビーの内容は、これまでNPO日本タッチ・コミュニケーション協会の作成した資料などを活用させて頂き、ベビーからチャイルドまでのテキスト化が行えた。)
- ・呼びかけをするまで支援者のフォローアップの目的で企画していたが、これまでNPO日本タッチ・コミュニケーション協会のセミナーを受講された子育て中の親へも、声かけを行ったところ、未収園児を抱えた参加者があり、急遽託児サービスをつけなくてはならなくなってしまった。(NPO日本タッチ・コミュニケーション協会の協力を全面的に受けて、迅速に対応できた。)

◆今後の課題・発展の方向性

NPO日本タッチ・コミュニケーション協会の主催するベビー＆チャイルドセンターを中心として、各地域のステーションがネットワークを組み、B&Cタッチステーションの会が設立し、本事業によって、広島県内にそのネットワークが広がり、サポート体制も拡大し、内容も充実できた。

<今後の課題>

交通費や人件費が捻出できない現状では、どのように県外への普及していくのか、ということが課題である。

<発展の方向性>

新規ステーションの継続と、活性化。作成したテキストを使って、新たなサポーター養成や、新規ステーションの準備を行っていきたい。

現在、NPO日本タッチ・コミュニケーションは、ソーシャルビジネスプランナー養成講座に力を入れており、本会もそれに同調して発展していきたいと考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

本事業の成果として、広島県内に5つあったステーション(呉市・広島市中区・安佐北・安佐南・廿日市)に加え、新規ステーション(安佐北・安佐南・安芸区・熊野町・福山)が立ち上がり、他地域(熊本・児島)にも開設準備が始まりました。各地域のステーションでは、子どもの心に沿った子育てがしたいと心理学や交流分析に興味を持つ親が増え、積極的に各ステーションへの参加、利用をされる親子が増え、私たちの活動も活気づいてきました。

子育て中のお母さんや現職の保育士・支援センターの職員など子育てに関わっている方とのバリアフリーの活動の輪が広がり、次期サポーター候補者も自動的に手が上がるようになりました。これもひとえに、マツダ財團様より温かいご支援をいただいた賜物と、B & C タッチ・ステーションの会の代表として、心より感謝申し上げます。これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。